

## インターバンクの声（2014年11月28日）

当然個人差はあると思うが、多くの為替ディーラーにとってロンドン市場かニューヨーク市場が休場になる日は、どこかいつもの緊張感からは多少解放されている。ロンドン、ニューヨーク両市場が休場（確か年に2回ほどしかないが）の日は、さらに解放されるというよりも、正直半ば休み気分だ。自分世代のディーラーには叶わなかった夢だが、若い世代のディーラーのためにも、いっそ東京市場も休場にしてしまう英断を期待したい。昨日はニューヨーク市場が感謝祭のため、株式と債券市場は完全にお休み。為替市場はドルのデリバリーが出来ない休場扱いのはずだが、隣国カナダがともに休みとならず、ロンドン市場が残業してしまう態勢が出来てしまっただけからは、日本時間の午前2時、3時頃までは結構動いてしまう事が多い。117円台半ばで膠着と思われていた相場も、珍しくウィーンで開催されていた石油輸出国機構（OPEC）の総会で減産が見送りになった影響からドルが上昇した。弱い米経済指標の発表が続いた割にはしぶとくドルが売られずにいる印象だ。静かめになることが多い12月相場だが、本邦の総選挙や微妙な会合になりそうな米連邦公開市場委員会（FOMC）も予定されており、今年は波乱の12月相場かも知れない。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。